令和５年度山形県献血推進協議会議事録

１　**開催日時**　令和６年３月 14 日（木）　13:30～14:30
２　**開催場所**　あこや会館　ホール
３　**出席者**
（１）**委員**

中目千之、武田弘明、鈴木浩幸、岡嵜千賀子、柿崎明美、板垣有紀、岩田雅史、加藤克彦、本間優子、遠藤洋也（菊地宏也代理）、片桐麻希子（土屋隆子代理）、辻原吉子、内山満月、小笠原千聡、加藤裕一（山田敬子代理）、熊谷弘美

以上 16 名

（欠席委員）

佐藤孝弘、後藤道子、奥山賢、永岡幹子、五十嵐雪子、土谷順彦、鈴木育子、野村健太郎

（敬称略）

（２）**事務局**　山形県健康福祉部：阿彦医療統括監、高梨課長　他
山形県赤十字血液センター：鎌塚所長、金光事業部長　他

４　**会議概要**
（１）**開会**（13:30）

（２）**あいさつ**

（３）**委員紹介**

（４）**協議**
①　**報告事項**
ア　事務局（健康福祉企画課）
資料１に基づき報告

イ　事務局（山形県赤十字血液センター（以下「血液センター」））
資料２に基づき報告

＜質問・意見等＞
○加藤氏（山形県保健所長会）
当日献血にいらした方で、結局採血できなかったっていう方の数はお分かりか。また、50 半ばを過ぎるとドナー登録から外れていくと思うが、実際ドナーとして選ばれたときに対応できる人数はどれくらいか。

○事務局（血液センター）
　服薬やヘモグロビン値から献血できなかった方の人数は、手元に資料が無く、正確には報告はできないが、おおよそ1日50名の受付の中で5,6名ほどできなかった方がいらっしゃる。
　また造血幹細胞提供のことについては、血液センターでは登録業務のみ行うものであり、その差については日本骨髄バンクとなるコールセンターで把握しているもので、正確に数字は報告できかねる。

○辻原委員（ガールスカウト山形県連盟）
　献血の普及啓発のDVD対象は子供たちも見られるものなのか、これをお借りしたいときに貸し出しは可能か。
○事務局（血液センター）
　献血の普及啓発用DVDにつきましては、実際に輸血を受けた方の声が聞けるDVDとなっている。貸し出しについては、ご連絡いただければ可能です。

○熊谷委員（フリーライター）
　資料2の3ページ目の小学校セミナーの開催で参加人数22人ということで、どんなクラスを対象に行ったものか。
○事務局（血液センター）
　小学校の対象のセミナーについて、献血ルームで見学会という形で実施している。また、夏休みの研究課題とか取り上げていただいて、それに伴い見学会を実施している。
○熊谷委員（フリーライター）
　参加した学生の感想やどのように感じたなどの話はあったか。
○事務局（血液センター）
　折り紙のちっちちゃんなどでまずは興味を持っていただき、そちらからまずは献血というものを感じていただいている。やはり親子でいらっしゃるので、親の姿を見て、まず献血っていうものを認知していただいく。感想としては、大きくなったら献血したいっていう声もいただいた。

○岡嵜委員（一般社団法人山形県薬剤師会）
　山形県赤十字血液センターホームページはおもちですか。県薬剤師会とリンクさせていただくことは可能かどうか。
○事務局（血液センター）
　はい、ぜひ検討させていただく。

② 諮問事項

令和６年度山形県献血推進計画（案）について

事務局（健康福祉企画課）

「令和６年度山形県献血推進計画（案）」に基づき説明

事務局（血液センター）

資料３に基づき説明

審議の結果、（案）のとおり承認された。

＜質問・意見等＞

○柿崎委員(山形県栄養士会)

今後 200mL 献血はどのようになっていくのか。また、災害時における対策について具体的に教えていただければ。

○事務局（血液センター）

医療機関からの要請はほぼ 100%近く 400mL 献血となっている。しかし 200mL 献血も NICU で使用されている状況もあり、計画には 1 日 1 人～2 人としていることから、特に若年層の献血のきっかけづくりとして 200mL 献血を推進していくことになると思う。

○事務局（健康福祉企画課）

災害時の対策ということで、有事の場合は血液センターと連携する計画はあるが、訓練はできていない。今後血液センターと調整の上、どういうことができて問題点があるかということを検討していければと思っている。

○加藤委員（ﾗｲｵﾝｽﾞｸﾗﾌﾞ国際協会 332-E 地区ｱｲﾍﾙｽ･献血･献眼･臓器移植推委員会）

各自治体市町村の献血推進協議会の活動について、予算的に厳しく啓発資材を作ることも難しいとの声がある。

○事務局（健康福祉企画課）

各市町村の実態につきましては、こちらでも十分把握できてないところがあるため、今後各市町村の方からも、どういった状況なのか、お聞かせいただき、何ができるか考えていきたいと思う。

○武田委員（山形県病院協議会）

50 代、60 代の方が頑張っていただいているところではあるが、40 代の方が歳を取ってから献血をしていただけるのだろうか。

○事務局（血液センター）

平日に企業さんに献血車を配車し、まず企業の社員メインで献血していただいている。その中で最近では服用薬の基準緩和があったことから、そのことを説明し、献血者確保をしている。

○加藤氏（山形県保健所長会）

献血した血液は東北ブロックで製剤化していると思いますが、災害時も同じ方式であるか。災害時には例えば各エリアで製剤化して供給するのか。

○事務局（血液センター）

現在ブロックごとに一つの製造所があり、その体制は災害時でも原則としては変わらず、各県の血液センターが製剤を作るということはない。能登半島地震では金沢でバスが出せなくなり、その分他のブロックから製品として製造した血液を東海・北陸ブロック血液センターを通じ、石川県内の医療機関に供給したという実績がある。

（追記：管轄する製造所が災害等により機能しない場合には、他ブロックの製造所に原料血液を送り、検査製剤を行う体制をとっている。）

（６）閉会（14:30）